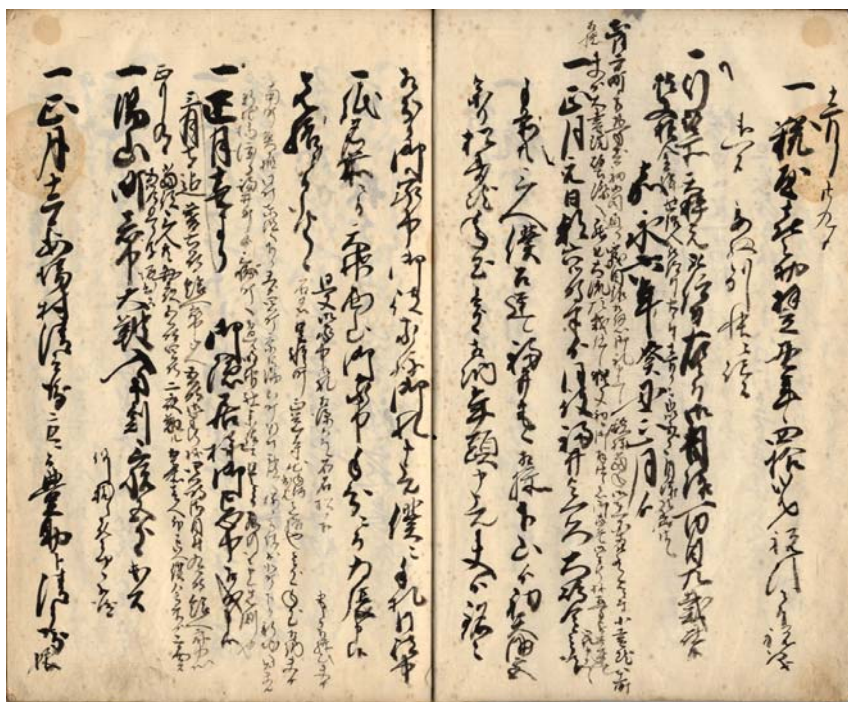


年始のあいさつと年賀状

あけましておめでとうございます。旧年同様本年もよろしく願いいたします。年賀状のきまり言葉のひとつですが、その成り立ちを示す興味深い記録が市史の第4巻近世資料に掲載されています。



「福尾小三郎日記」の嘉永6年元旦部分

相分り御家中・御役家様御礼申し上る、僕（下男）に手札、同役中（惣年寄3名）一紙名前にて天神・西山御家中手分けにて張らさせ申し候」となります。

この記事で興味深いのは、まず年始まわりが元旦におこなわれている点です。市史の民俗編にもある通り、民俗的には正月2日からという事例が多いのですが、惣年寄達は元旦の朝に年始まわりに出かけています。次に年始の挨拶が「お礼」と記されている点です。これは当時のほかの史料でも同様で、本来は旧年中に世話になったことへの「お礼」が主眼であったことがうかがえます。さらに下男に手分けして「張らさせた」という「手札」です。この「手札」には3名の惣年寄の名が列記してあり、それを張らせてまわったというのです。つまり下男に「張って」まわらせた名刺で惣年寄本人の挨拶に代えており、これがまさに元旦に配達される年賀状の起源なのです。

近年はEメールなど賀詞の交換も多様化しましたが、元旦の送達にこだわる方は少なくありません。さて皆さんの年賀状やメールには旧年中の「お礼」の文言はありましたでしょうか？現在の年賀状を歴史的に検討してみるのもまた一興です。

江戸時代の三田の町は大きく北町・本町・南町の3町に分かれ、それぞれに惣年寄そうどしよりがおかれました。このうち江戸時代の終わり頃に本町の惣年寄をつとめた糶屋小三郎の日記に嘉永6（1853）年元旦の年始まわりの模様が記されています。当日は朝六ツ時半むつどきはん（午前7時頃）に惣年寄3名が下男を伴って集合し、天満神社に参拝したあと手分けして三田藩の上級武士や役人宅へ年始の挨拶にまわっています。

その部分を読み下すと「銘々